

<p style="text-align: center;">国語Ⅱ (JapaneseⅡ)</p>	<p style="text-align: center;">2年・通年・3単位・必修</p> <p style="text-align: center;">5学科共通</p> <p style="text-align: center;">担当 現代文 鍵本 有理 古典 松井 真希子</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (3)</p>		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>国語には二つの面がある。一つは、文章を読んでその登場人物の気持ちに共感できる、あるいは書いてある内容を理解するという。これにはまず受講生一人一人が人間として「生きている」ということが大切である。また、自分の心の中で「わかった」と思っている人にも人によっては伝わらない。「こういう気持ちだ」「つまりこういうことだ」と言葉で表現できて、初めて「わかった」ということになる。この二つをふまえて、「考える」「読む」「書く」「話す」ことを目指す。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>高等学校第2学年に相当する国語の力を身につけるため、高等学校用の教科書を使用し、いろいろな文章を読んで様々な角度から物事を考える。そして、その内容を言葉でまとめ、ノートや文章に「形として」残していくようにする。</p> <p>週3時間のうち、2時間を現代文、1時間を古典（古文・漢文）の時間に当てる。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>まず授業を「聞く」こと。授業中の発問を自分で考え、その過程を残した「わかる」ノートを作ることも必要である。また漢字や語句についての課題を出すので、必ずすませておくこと。</p> <p>古典については毎時間予習をすること。教科書の本文を写し、大事な注なども写しておくことよい。自分で現代語訳できるところは訳しておき、意味がわからないと思ったところを授業で集中して聞くようにするとよく理解できる。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間試験： 1) 基本的な漢字や語句の知識を身につける。2) 評論・小説の主題がつかめる。 3) 古文を正確に音読できる。4) 古文の内容を現代語でまとめたり表現したりすることができる。</p> <p>前期末試験： 1) 基本的な漢字や語句の知識を身につける。2) 論理的な文章の構成・小説の主題がつかめる。3) 漢文訓読の知識を身につける。4) 漢文の内容を正確に現代語で表現できる。</p> <p>後期中間試験： 1) 基本的な漢字や語句の知識を身につける。2) 評論の主張が把握できる。 3) 手紙の形式を理解する。4) 詩を味わう。 5) 古典作品の時代背景、主題を理解する。</p> <p>学年末試験： 1) 基本的な漢字や語句の知識を身につける。2) 人物の置かれた状況が読解できる。 3) 古典常識についての知識を身につける。4) 古文の内容を正確に現代語で表現できる。 5) 古典の敬語について理解する。</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>定期試験成績（65％）を基本とし、これに課題提出（20％）、授業中の音読・発表等の態度や漢字テスト（15％）を加えて総合的に評価を行う。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>「現代文B」第一学習社、「標準古典B」第一学習社</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>「新国語便覧」第一学習社、「高校漢字必携」第一学習社、配布プリント</p> <p>「完全マスター古典文法準拠ノート〈実力養成〉」第一学習社 ※国語辞典を一冊準備しておくこと</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>国語は全ての科目の基礎といえる。歴史や倫理学だけでなく英語の勉強、各科目のレポート作成、数学の論理的思考とも関連するので留意すること。</p>		

講義項目・内容

週数	現代文講義項目	講義内容	古典講義項目	講義内容	自己評価*	
第1週	ガイダンス	ノートの取り方説明 本について・国語力について	ガイダンス 説話(1)『十訓抄』	ノートの取り方説明 「文字一つの返し」		
第2週	評論	『美しい』を探す旅に出よう ①	説話(2) 『古今著聞集』	「大江山」		
第3週	小説	同上②	『竹取物語』(1)	竹取物語概説・「火鼠の皮衣」①		
第4週	小説	中島敦 「山月記」①	『竹取物語』(2)	「火鼠の皮衣」②		
第5週	小説	同上②	『竹取物語』(3)	「かぐや姫の昇天」①		
第6週	小説	同上③	『竹取物語』(4)	「かぐや姫の昇天」②		
第7週	小説	同上④	『竹取物語』(5)	「かぐや姫の昇天」③		
第8週	前期中間試験解説 短歌と俳句	「創作の楽しみ・短歌と俳句」	前期中間試験解説 漢文の基本	漢文に関する1年次の復習		
第9週	短歌と俳句	同上②	故事・寓話(1)	「助長」		
第10週	評論	「日本語史の『当たり前』」	故事・寓話(2)	「推敲」		
第11週	評論	同上②	項羽と劉邦(1)	「鴻門之会」①		
第12週	評論	同上③	項羽と劉邦(2)	同上②		
第13週	小説	恩田陸 「骰子の七の目」	項羽と劉邦(3)	同上③		
第14週	小説	同上②	項羽と劉邦(4)	同上④		
第15週	小説	同上③	項羽と劉邦(5)	同上⑤		
前 期 末 試 験						
第16週	前期末試験解説 評論	「日本人の『顔』」	前期末試験解説 『徒然草』(1)	「公世の二位のせうとに」		
第17週	評論	同上②	『徒然草』(2)	「相模守時頼の母は」①		
第18週	手紙文	手紙の書き方(礼状作成)	『徒然草』(3)	同上②		
第19週	評論	「働かないアリに意義がある」	『徒然草』(4)	「吉田と申す馬乗り」		
第20週	評論	同上②	『方丈記』(1)	「ゆく河の流れ」①		
第21週	詩	茨木のり子の詩	『方丈記』(2)	同上②		
第22週	詩	宮沢賢治の詩	『方丈記』(3)	「安元の大火」①		
第23週	詩	長谷川龍生の詩	『方丈記』(4)	同上②		
第24週	後期中間試験解説 小説	夏目漱石 「こころ」①	『方丈記』(2)	源氏物語概説・「光源氏誕生」①		
第25週	小説	同上②	『源氏物語』(3)	同上②		
第26週	小説	同上③	『源氏物語』(4)	同上③		
第27週	小説	同上④	『源氏物語』(5)	「小柴垣のもと」①		
第28週	小説	同上⑤	『源氏物語』(6)	同上②		
第29週	小説	同上⑥	『源氏物語』(7)	同上③		
第30週	小説	同上⑦まとめ	『源氏物語』(8)	同上④		
学 年 末 試 験						

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった。
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

歴 史 I (History I)	2年・通年・2単位・必修 2MESIC 担当 大矢 良哲	
〔準学士課程（本科 1-5 年）学習教育目標〕 (1)		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>歴史の学習の目的は、過去に学ぶ、つまり今と未来への道標を探ることにある。日本史の場合、その目的は、過去の文化的伝統の中から、われわれが本当に誇り得るもの、明日の日本の発展、さらに人類全体の向上のために貢献し得るもの、反対に、日本民族の進歩を妨げてきたもの、今後一日も早く清算されなければならないものを的確に見分け、それぞれにふさわしい正当な位置づけを行うところにある。歴史では基本的な事実を正しく理解し、歴史的なものの見方を育てていきたい。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>講義は、授業時間数の関係で原始から近世までの通史と近現代の一部を取り上げる。近現代は“アジアのなかの日本”をテーマに平和学習を行い、夏休みにレポートを課す。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>歴史学という学問は、過去に向かってわれわれの探究心を無限に伸ばしていくものだから、知的遊戯としての楽しさを含んでいる。しかしそれは過去を過去としてのみ後ろ向きに見るものではない。むしろ前向きの実践的な性格の強い学問であり、人々の生き方そのものに直結している。歴史は暗記ものだというような考え方は、この点が理解されていないことによる。歴史学は、経済学・法学・政治学などとは違って、社会諸現象の総体を有機的に捉え、これを時間の経過において問題にするところに特色がある。テストの際に暗記さえすればよいという考えは捨てていただきたい。むしろ歴史の流れを理解するほうが大切で、そのために多少の歴史的用語の学習が必要となるのである。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>学生諸君が、日本の歴史を、日本をとりまく世界の歴史とのつながりのもとに科学的に理解しようとする。そのためには、まず日本史の正確な理解が要求される。</p>		
<p>〔評価方法〕 以下の3つの項目で成績評価を行う。</p> <p>定期試験（60%）…前期中間・後期中間・学年末に実施。</p> <p>レポート（25%）…夏休みには平和学習の課題を出す。前期末においては、このレポートが成績評価の主な資料となる。</p> <p>残り(15%) …出席状況・受講態度・講義ノートの提出等によって評価する。</p> <p>また、秋には文化財の自由研究の課題（奈良国立博物館の活用）を出し、決められた期間内にレポートのかたちで提出した者には学年末成績に少し加点する。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>教科書としては簡潔に歴史の筋道を記述した『もういちど読む 山川日本史』（山川出版社）を用い、『山川 ビジュアル版 日本史図録』（山川出版社）によって理解を深める。</p> <p>〔補助教材〕</p> <p>補助教材としてはビデオ教材や配布プリントなどを使用する。</p>		
<p>〔関連科目・学習指針〕</p> <p>本教科は地理・歴史Ⅱ（世界史）・政治経済・法学・経済学等の科目に関連する。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第 1 週	〔原始・古代〕 歴史とは、文化のはじまり	日本歴史をいかに学ぶか、先史時代から縄文文化への発展とその特徴	
第 2 週	農耕社会の誕生	(ビデオ教材使用) 縄文社会から弥生社会への移行	
第 3 週	小国の時代と古墳	邪馬台国と大和王権の誕生	
第 4 週	大和王権と古墳文化	大和王権の発展と古墳文化	
第 5 週	飛鳥の宮廷	聖徳太子と蘇我氏の政治	
第 6 週	大化の改新	中大兄皇子と改新政治	
第 7 週	律令国家	律令国家の草創とその繁栄	
第 8 週	飛鳥・白鳳の文化	大陸文化と日本人の精神文化	
第 9 週	平城京の政治	奈良時代の国家の発展	
第 10 週	〔近代〕 大日本帝国の戦争	近代日本とアジア	
第 11 週	戦時下の国民生活	大東亜共栄圏の実態、国民生活の崩壊 (ビデオ教材使用)	
第 12 週	敗戦と戦後改革	連合国の動向と原爆投下、沖縄戦と基地 (ビデオ教材使用)	
第 13 週	〔古代〕 天平文化	国家仏教と天平芸術	
第 14 週	平安遷都と貴族政治	律令政治再建の気運と藤原氏	
第 15 週	弘仁・貞観文化	唐風文化の盛行と密教	
第 16 週	摂関政治	藤原時代の政治	
第 17 週	国風文化	浄土思想と国風文化	
第 18 週	〔中世〕 荘園と武士団	荘園の発達と武士の台頭	
第 19 週	院政と平氏政権	院政の展開と武士社会の形成	
第 20 週	鎌倉幕府の誕生	武家支配の浸透	
第 21 週	鎌倉文化	新仏教の発展と文化の新傾向	
第 22 週	蒙古襲来と南北朝動乱	幕府の衰退と南北朝の分立	
第 23 週	室町幕府と勘合貿易	室町幕府の展開と外交政策	
第 24 週	下剋上の社会と戦国大名	農民の成長と下剋上、戦国大名の分国支配	
第 25 週	北山文化・東山文化	東山芸術と民衆の文化	
第 26 週	〔近世〕 ヨーロッパ人の来航と織豊政権	信長・秀吉の天下統一	
第 27 週	桃山文化と幕藩体制の確立	桃山文化と江戸幕府の成立	
第 28 週	鎖国への歩み	「鎖国」のなかの異文化接触	
第 29 週	幕藩体制の展開と文化	幕政の安定と元禄・化政の文化	
第 30 週	まとめ		

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
(達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

微分積分 I (Calculus I)	2年・通年・4単位・必修 機械、電気工学科 担当 安田 智之 電子制御、情報、物質化学工学科 担当 飯間圭一郎	
〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)		
〔講義の目的〕 近代になってから完成した数学の中で最も重要な部分とされている「極限」、「微分法」、「積分法」の考え方をひととおり学びます。これにより、数学的思考力を養うとともに十分な計算力を培い、将来学ぶ様々な分野の科学を学ぶための基礎学力を身につけることが目的です。		
〔講義の概要〕 窓から小石を握った手を差し出し、手のひらを開くと小石はだんだん速度を増しながら落下していきます。このとき、たとえば「2 秒後の速度」はどうやって計算すればよいのでしょうか。講義の前半では、その計算法を考え、それを一般化した考え方を学び、応用を考えます。また講義の後半では、図形の面積や体積の計算法を考え、それを一般化した考え方を学び、応用を考えます。		
〔履修上の留意点〕 最初から記号や言葉の意味を頭で理解しようとせずに、練習問題を解くことを通して、手を動かしながら考えていくことを強く勧めます。最初のうちは、細かいことを気にせずに、大筋をつかむように勉強していくとよいでしょう。計算の仕方と理論がわかれば数学は非常におもしろいものです。そうなるためには、まずは授業中、集中して積極的に手を動かし自分の頭で理解するよう努力しましょう。また、ノートを書きただけでは、理解したことにはなりません。自分なりに理解しようと、頭を働かせることが重要です。そして、授業の予習・復習を中心に地道な家庭学習を心がけて下さい。難しいと思うことも繰り返しやってみれば易しくなってきます。 なお、疑問点がある場合には授業中だけでなく、オフィスアワーなどの放課後の時間も利用して積極的に担当教員のところへ質問しに来て下さい。		
〔到達目標〕 何となく理解するのではなく、自力で問題が解けなければ意味がありません。教科書の「例題」と「練習」および問題集の A 問題が完全に解ける実力をつけることが目標です。各定期試験時での到達目標の内容は次の通りです。 前期中間試験： 数列の一般項や和を求められ、数学的帰納法による証明ができる。無限数列の極限や無限級数の収束・発散を調べることができる。関数の極限の考え方が理解できる。 前期末試験： いろいろな関数（三角関数や指数関数など）の極限および導関数の計算ができる。導関数の意味を理解したうえで、増減表（増減凹凸表）を使って関数のグラフの概形を描くことができる。 後期中間試験： 微分を応用として近似値や速度・加速度等いろいろな量の変化率の計算ができる。置換積分と部分積分を含む不定積分の計算ができる。 学年末試験： 定積分の計算ができて、図形の面積や立体の体積が求められる。		
〔評価方法〕 定期試験(60%)を基本とし、小テスト・宿題・課題レポート・授業への取り組み(40%)を加えて総合的に評価します。		
〔教科書〕 「新版 微分積分 I」 実教出版 〔補助教材・参考書〕 「新版 微分積分 I 演習」 実教出版		
〔関連科目〕 微分・積分法は物理や専門科目においても使われる重要な内容ですので、よく理解して計算が出来るようにしておくことが肝心です。さらに詳しい内容は、3年次の「微分積分Ⅱ」で学習します。		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	数列、等差数列	等差数列の一般項と和を求める。	
第2週	等比数列	等比数列の一般項と和を求める。	
第3週	いろいろな数列	数列の和を Σ の記号で表し、公式を利用して和を求める。	
第4週	漸化式と数学的帰納法	簡単な漸化式の解法と数学的帰納法による証明を紹介する。	
第5週	無限数列の極限	等比数列を含む無限数列の極限を考えて収束と発散を調べる。	
第6週	無限等比級数	無限級数（特に無限等比級数）の収束と発散を調べる。	
第7週	関数の極限值	微分を定義するために関数の極限を考える。	
第8週	関数の連続性	いろいろな関数の極限を求め、関数の連続性について考える。	
第9週	平均変化率と微分係数 導関数	平均変化率の極限として微分係数を定義し、導関数を考える。	
第10週	関数の積・商の微分法	積と商の微分の公式を証明し、微分の計算に利用する。	
第11週	合成関数と逆関数の微分法	合成関数と逆関数の微分を利用して、複雑な関数を微分する。	
第12週	三角関数、指数関数と対数の導関数	三角関数・逆三角関数、指数関数や対数関数の導関数を導く。	
第13週	高次導関数	第2次以上の高次導関数を計算する。	
第14週	関数の導関数と増減	微分を利用して曲線の接線の方程式や増減、極値を調べる。	
第15週	関数のグラフ	第2次導関数までを計算して、曲線の凹凸や変曲点を調べる。また、増減表を使って関数のグラフを描く。	
前期期末試験			
第16週	微分の応用（1）	グラフや増減表を使って関数の最大・最小を求める。	
第17週	微分の応用（2）	近似値を計算する。速度や加速度等いろいろな変化率を求める。	
第18週	不定積分	基本的な不定積分の計算をする。	
第19週	置換積分法	置換積分法により不定積分を計算する。	
第20週	部分積分法	部分積分法により不定積分を計算する。	
第21週	いろいろな関数の不定積分	分数関数や三角関数の不定積分を計算する方法を習得する。	
第22週	不定積分のまとめと演習	不定積分の計算に習熟するための演習を行う。	
第23週	定積分	定積分を定義し、基本的な定積分の計算をする。	
第24週	定積分での置換積分法	置換積分法により定積分を計算する。	
第25週	定積分での部分積分法	部分積分法により定積分を計算する。	
第26週	面積と定積分	定積分を使って曲線や直線で囲まれた図形の面積を計算する。	
第27週	いろいろな図形の面積	いろいろな図形の面積や、曲線の長さを計算する。	
第28週	体積と定積分	立体の体積を、定積分を用いて求める。	
第29週	回転体の体積	定積分を使って回転体などの体積を計算する。	
第30週	定積分のまとめと演習	定積分の計算に習熟するための演習を行う。	
学年末試験			

* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">代数・幾何 I (Algebra and Geometry I)</p>	<p style="text-align: center;">2年・通年・2単位・必修 機械, 電子制御 担当 作間 美穂 電気工学科, 情報, 物質化学工学科 担当 山中 聡恵</p>	
<p>〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕 ベクトルと行列・行列式について学ぶ。これらは自然科学については言うまでもなく社会科学でも大いに利用されている基本的な数学的道具である。幾つかの数字をまとめて組として扱う数学的概念に慣れ、それを思考する力を養うと共に、十分な計算力をつけることを目的とする。</p>		
<p>〔講義の概要〕 前期においては、大きさと向きをもつ量であるベクトルを用いて平面上の直線・円や空間内の直線・平面・球など、平面図形と空間図形を表現してそれらを考察する。後期においては、長方形上に並べられた数字の組である行列とその組から計算された実数値である行列式を使って「連立方程式の解法」を学ぶ。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 最初から記号や言葉の意味を頭で理解しようとせずに、出来るだけ具体的な問題(例題)を通して、図形や数式をかきながら考えていくことを勧めます。まずは細かいことをあまり気にせずに、大筋をつかむように勉強していくとよいでしょう。図形の式表現の仕方、いろいろな量の計算の仕方、更にはその理論がわかってくればだんだん楽しくなってくると思います。 授業中は集中して教員の言葉、板書の内容を理解しようとして下さい。また、きちんとノートをとることは必要です。しかし板書を写しただけでは、理解したことにはなりません。授業のあと、必ず復習を行い、自分なりに内容をかみくだいて納得できるまで、頭を働かせることが重要です。そして、練習問題を、時間をかけてこつこつと解いていくことが大切です。復習を主とする地道な家庭学習を心がけて下さい。疑問点がある場合には授業中だけでなく、放課後も利用して積極的に担当教員のところには是非質問に来てほしいと思います。</p>		
<p>〔到達目標〕 教科書の「問題」と「練習問題」、問題集の「A 問題」を自力で解けるようになることが最低目標です。 前期中間試験まで：平面上の直線、円などについての考察を、ベクトルを用いて行えること。 前期末試験まで：空間内の直線、平面、球面などについての考察を、ベクトルを用いて行えること。 後期中間試験まで：行列の計算ができ、逆行列を用いて連立一次方程式が解けること。 学年末試験まで：行列式の計算ができ、それを用いて連立一次方程式が解けること。</p>		
<p>〔評価方法〕 定期試験の結果(70%)を基本とし、小テスト・レポート・授業への取り組み(30%)を加えて総合的に評価する。</p>		
<p>〔教科書〕 「新版 線形代数」、実教出版、岡本 和夫 監修 〔補助教材・参考書〕 「新版 線形代数演習」、実教出版、岡本 和夫 監修</p>		
<p>〔関連科目〕 1 年次の「数学 α」と「数学 β」で学んだ内容が基礎となる。本講義の内容は 3 年次の「代数・幾何 II」にそのまま引き継がれる。本講義で学ぶ内容は「微分積分」と共に専門科目の基礎となる。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	ベクトルの意味とその演算	「大きさ」と「向き」をもつ量とその演算を考える。	
第2週	平面ベクトルの成分	ベクトルを成分表示して和差・実数倍の演算を行う。	
第3週	平面ベクトルの性質	ベクトルの大きさ、分解、2つのベクトルの関係。	
第4週	平面ベクトルの内積	平面ベクトルの掛け算を定義しその演算を行う。	
第5週	平面ベクトルの内積の性質	ベクトルの和差・実数倍・内積の計算法則を考える。	
第6週	平面上の位置ベクトル	平面上の点をベクトル表示し、点の位置を求める。	
第7週	直線、円のベクトル方程式	平面上の直線、円をベクトルで表現し、考察する。	
第8週	空間座標と空間ベクトル	空間内の点をベクトル表示し、点の位置を求める。	
第9週	空間ベクトルの成分	ベクトルを成分表示し和差・実数倍の演算を行う。	
第10週	空間ベクトルの性質	ベクトルの大きさ、分解、2つのベクトルの関係。	
第11週	空間ベクトルの内積	空間ベクトルの掛け算を定義しその演算を行う。	
第12週	空間ベクトルの平行と垂直	ベクトルの演算を用いて平行・垂直を表す。	
第13週	空間内の位置ベクトル	空間内の点をベクトル表示し、点の位置を求める	
第14週	空間内の直線の方程式	空間内の直線をベクトルを用いて表現する。	
第15週	空間内の平面・球面の方程式	空間内の平面、球面をベクトルを用いて表現する。	
前期末試験			
第16週	行列	行列を定義し、行列の和、実数倍を考察する。	
第17週	行列の積	行列の積を定義し、その基本法則を導く。	
第18週	行列の積の性質	行列の積についての零因子、累乗を考える。	
第19週	逆行列とその性質	行列の積について逆演算を考える。	
第20週	いろいろな行列	転置行列、対称行列、交代行列、直交行列。	
第21週	掃き出し法	掃き出し法で連立一次方程式を解く。	
第22週	掃き出し法（その2）	連立一次方程式の解の種類を考察する。	
第23週	行列の階数、逆行列	連立一次方程式の解の有無判定。逆行列の求め方。	
第24週	行列式の定義	行列に対して一つの実数値を対応させる。	
第25週	行列式の性質	行列式についての基本的な性質を考察する。	
第26週	文字を含む行列式	行列式を数式の因数分解に応用する。	
第27週	行列式の展開	n 次の行列式を $(n-1)$ 次の行列式を用いて表す。	
第28週	行列式と逆行列	行列式を用いて逆行列を求める。	
第29週	行列式と連立一次方程式	連立一次方程式の解を求める公式を導く。	
第30週	行列式と連立一次方程式(その2)	連立一次方程式の解が無数にある場合を考察する	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">物理Ⅱ (Physics Ⅱ)</p>	<p style="text-align: center;">2年・通年・3単位・必修 MC 担当 武内 将洋 E 担当 稲田 直久</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>近年の急激に進歩した技術は、我々の生活の隅々に入り込み個人の能力を飛躍的に増大してくれました。しかしその一方、それらの技術は「ブラックボックス化」し、その真の姿（原理）が見えにくくなっています。そのため、このような時代・世界において、特に技術者が責任ある行動や決断を行うためには、背景にある科学的原理を理解する事によって、自分自身の理解力、洞察力を高めることが必要になっています。</p> <p>2 年次の物理はあらゆる専門科目の基礎であると同時に、科学の基本的方法を学ぶことを目的としています。具体的には</p> <p>(1) 自然の性質（実験事実）を数式によって理解すること：<u>数理解の理解</u></p> <p>(2) 物理学を理解することで自然界のいろいろな現象を統一的に説明できること：<u>普遍性の理解</u></p> <p>です。そのためには、科学の理解とは、単なる問題の解答を見つける能力と異なる事を認識し、創発的思考や、自ら間違いを訂正する能力を訓練してもらいたいと思います。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>2 年次の物理では、物理学や工学の各分野における基本理解を得るために必要な熱力学、剛体や流体の力学、波動、電磁気（静電気）の各分野を学びます。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>物理学では、「理解する」ということがどういうことかを理解できないと困ります。したがって授業中にこちらから質問を投げかけますので、それに答えられるように授業の内容を「理解」していくことが重要です。そのため、授業中のノートは板書をそのまま写すのではなく（可能な限り短時間で）「自分の言葉で」まとめたものを作成し、話を「聞くこと」を要求します。また、数式をより深く理解するために実験が設定されていますので、しっかりと準備をして集中して取り組んでください。</p> <p>講義内容は予定であり、学生の理解度を考慮して多少の変更をする可能性があります。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間試験：熱現象に関する事項を理解するとともに、熱力学第一法則を理解し問題が解けること。</p> <p>前期末試験：熱力学第二法則、剛体の釣り合いの問題、圧力の問題を理解し、証明・問題が解けること。</p> <p>後期中間試験：波動の基本事項、音波、ドップラー効果を理解し、証明・問題が解けること。</p> <p>学年末試験：光波、光の干渉、電磁気の基礎（静電界）を理解し、証明・問題が解けること。</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>定期試験（60%）、実験レポート・課題レポート（30%）、共通テスト（10%）により総合的に判断します（合計 100%）。長期欠席による成績不振などの特別の場合は、補講やレポートを考慮する場合があります。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>高専の物理（第 5 版、森北出版）、高専の物理問題集（第 3 版、森北出版）</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>数学の教科書、フォトサイエンス物理図録（数研出版）、配布プリント</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>物理Ⅰで習ったこと、および中学校の物理分野と数学の最低限の知識は仮定します。しかしながら数学的取扱いに関しては可能な限り復習を含めて授業をすすめる予定です。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	導入	講義方法、授業方法、成績評価方法の説明を行なう。	
第2週	万有引力下の運動	惑星および人工衛星の運動について理解する。	
第3週	単振動・慣性力	単振動および慣性力の基本を理解する。	
第4週	熱力学の基礎①	温度の定義と熱の正体について理解する。	
第5週	熱力学の基礎②	気体法則の原理と計算について理解する。	
第6週	熱力学の基礎③	熱と仕事の関係についての原理と計算について理解する。	
第7週	熱力学の基礎④	熱容量の原理と計算について理解する。	
第8週	熱力学の基礎⑤	比熱の原理と計算について理解する。(実験を行う)	
第9週	熱力学の原理①	気体分子運動論の原理と計算について理解する。	
第10週	熱力学の原理②	熱力学過程の計算をする。	
第11週	熱力学の原理③	熱力学第一、二法則の原理と計算について理解する。	
第12週	剛体の力学①	力のモーメントの原理と計算について理解する。	
第13週	剛体の力学②	剛体の釣り合いの原理と計算について理解する。	
第14週	流体の力学①	圧力の原理と計算について理解する。	
第15週	流体の力学②	浮力の原理と計算について理解する。	
前期期末試験			
第16週	波動現象の基礎①	直線を伝わる波の正体と考え方について理解する。	
第17週	波動現象の基礎②	波の基本式を理解する。	
第18週	波動現象の基礎③	縦波と横波について理解する。	
第19週	波動と数式①	正弦波の式の原理と計算について理解する。	
第20週	波動と数式②	定常波の原理と計算について理解する。	
第21週	空間に広がる波①	回折、干渉、反射の原理と証明、計算について理解する。	
第22週	空間に広がる波②	屈折の原理と証明、計算について理解する。	
第23週	音波①	音波の基本と計算について理解する。	
第24週	音波②	気柱共鳴の実験を行い、レポートを提出する。	
第25週	音波③	ドップラー効果の原理と計算について理解する。	
第26週	光波①	光波の基本と計算について理解する。(屈折の実験)	
第27週	光波②	光の干渉や偏光・分散(分光)について理解する	
第28週	電磁気学の基礎①	静電界、クーロンの法則の計算について理解する。	
第29週	電磁気学の基礎②	ガウスの定理の原理と応用について理解する。	
第30週	電磁気学の基礎③	電位、電位差の原理と計算について理解する。	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">化 学 II (Chemistry II)</p>	<p style="text-align: center;">2 年・通年・2 単位・必修 機械, 電気, 電子制御, 情報工学科 担当 北村 誠</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕</p>		
<p>〔講義の目的〕 私たちの身の回りの物質がどのように構成されているかを理解すること、さらに、物質の性質や物質の変化にかかわる自然現象を化学的に考えて、解釈することを目的とする。</p>		
<p>〔講義の概要〕 物質を構成している元素の基本的な性質を周期表から学ぶことで、無機化合物ができるしくみや性質を系統的に理解する。有機化合物を系統的に学ぶことで、その特性や用途を理解し、材料工学分野で利用される高分子化合物へとつなげていく。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 化学はともすると暗記科目のように見られているが、すこしの暗記はあるが、基礎事項をしっかり理解できれば系統的に理解できる科目です。復習をしっかりすることが大切です。そのために小テストを度々行う。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間試験： 1) 非金属の性質の理解、2) 非金属の反応性の理解、3) 周期表の理解、 4) アルカリ金属の理解、5) アルカリ土類金属の理解</p> <p>前期末試験： 1) 遷移金属の理解、2) 金属の分離法、3) アルカンの理解、 4) アルケン・アルキンの理解、</p> <p>後期中間試験： 1) 分子構造決定法、2) 官能基の性質、3) アルカンの反応性、4) アルケン・アルキンの反応性、5) アルコールの性質、6) カルボニル化合物の性質</p> <p>学年末試験： 1) 芳香族化合物の性質の理解、2) カルボン酸およびその誘導体の性質、 3) フェノール類 4) 高分子化学の理解</p>		
<p>〔評価方法〕 定期試験成績（70％）に小テスト点、課題および実験レポート点（30％）を含めて総合評価する。定期試験ごとに提示する達成目標を各々クリアする事で単位認定の原則とする。</p>		
<p>〔教科書〕 「新編 高専の化学」, 森北出版, 春山志郎 監修</p> <p>〔補助教材・参考書〕 「参考書名：最新図説化学」, 第一学習社, 佐野博敏・花房昭静 監修, 「参考書名：セミナー化学基礎+化学」, 第一学習社, 第一学習社編集, 「補助教材：配布プリント」</p>		
<p>〔関連科目〕 1 年で習う化学と併せて 5 単位が高専で習う化学のすべてである。しかし、工学で学ぶ者にとって化学は、数学や物理などとともに重要な基礎科目であり、卒業研究をするときや、就職後に必ず必要となる科目である。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	非金属元素と14族元素	周期表の理解。14族元素の性質について説明する。	
第2週	15族元素の性質	窒素・リンの単体、化合物の性質について説明する。	
第3週	16族元素の性質	酸素・硫黄の単体、化合物の性質について説明する。	
第4週	17族元素の性質	ハロゲンの性質・反応性について説明する。	
第5週	18族元素の性質	希ガスの性質、構造について説明する。	
第6週	アルカリ金属の性質	アルカリ金属の炎色反応・反応性および化合物の特性について説明する。	
第7週	アルカリ土類金属および両性元素の性質	アルカリ土類金属の説明。炎色反応・反応性および化合物の特性について説明する。両性元素とはどういうものかを理解させる。	
第8週	錯イオン・錯体	錯イオン・錯体を説明し、命名法を理解させる。	
第9週	遷移金属	鉄、銅、銀の単体およびその化合物の性質を説明する。	
第10週	金属イオンの分離	金属イオンの分離法について説明する。	
第11週	有機化合物の特徴と構造	有機化合物の構造と特徴について説明する。	
第12週	飽和炭化水素	アルカンの構造および命名法を理解させる	
第13週	不飽和炭化水素	アルケン、アルキンの構造および命名法を理解させる。	
第14週	異性体	構造異性体、幾何異性体を理解させる。	
第15週	混成軌道	有機化合物の構造を混成軌道から説明する。	
前期期末試験			
第16週	芳香族炭化水素	芳香族炭化水素の構造、特徴を説明する。	
第17週	官能基	官能基の性質を説明する。	
第18週	分子構造の決定	元素分析法による組成式の決定法を理解させる。	
第19週	アルカンの反応	アルカンの構造を説明し、その性質と反応性を理解させる。	
第20週	アルケンとアルキンの反応	アルケンとアルキンの性質と反応性を説明する。	
第21週	アルコール	アルコールの性質、合成法、分類について説明する。	
第22週	カルボニル化合物	アルデヒド、ケトンの合成法、性質について説明する。	
第23週	カルボン酸とその誘導体	カルボン酸、酸無水物、エステル合成法、性質について説明する。	
第24週	エーテル	エーテルの合成法、性質について説明する。	
第25週	芳香族炭化水素の反応	ベンゼンの置換反応・付加反応について説明する。	
第26週	その他の芳香族炭化水素	フェノール類、芳香族カルボン酸、ニトロ化合物について説明する。	
第27週	高分子化学	高分子とはどういうものかを理解させる。	
第28週	合成高分子	合成高分子の合成法と性質を説明する。	
第29週	天然高分子化合物	タンパク質を中心に、天然高分子化合物について説明する。	
第30週	機能性高分子	近年話題になっている機能性高分子について概説する。	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">保健・体育Ⅱ (Health and Physical Education Ⅱ)</p>	<p style="text-align: center;">2年・通年・2単位・必修 機械、電気、電子制御、情報工学科 ：中西茂巳、松井良明 物質化学工学科：中西茂巳、森弘暢</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (1)</p>		
<p>〔講義の目的〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種の運動実践を通して、技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、健康の保持増進のための実践力と体力の向上を図り、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。 		
<p>〔講義の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 体力を高め、運動を楽しむ態度を育てるために、各種の運動を実践し、競技ごとの技術やルール、社会性、身体に関する知識を学ぶ。 		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の能力に応じて運動技能を高め、体力の保持増進につとめること、また、自己の健康状態を把握し、改善していくための方法を身につけるとともに、スポーツ文化への理解をとおして豊かなスポーツライフの確立をめざしてほしい。 		
<p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種の運動技術に関する基礎的な技能及び知識を身につけ、運動に親しむ態度を養う。また、自己の体力を知り、高めるための方法を追求できるようにする。 		
<p>〔評価方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 各授業時の課題への取り組み状況（60%）、運動技術及び知識の習熟度（40%）を総合して評価する。 		
<p>〔教科書〕 『保健体育概論改訂増補版』近畿地区高専体育研究会編、晃洋書房</p> <p>〔補助教材・参考書〕 『アクティブスポーツ【総合版】』、大修館書店</p>		
<p>〔関連科目〕</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己 評価*
第 1 週	体力・運動能力調査①	文部科学省が定める「新体力テスト」の実施。	
第 2 週	体力・運動能力調査②	同上	
第 3 週	体力・運動能力調査③	同上	
第 4 週	テニス①	テニスのルールを知り、基本的技術習得することで簡易ゲームができるようにする。	
第 5 週	テニス②	同上	
第 6 週	テニス③	これまでに習得した技能を活かし、ダブルスでのゲームができるようにする。	
第 7 週	バレーボール①	これまでに習得した個々の技能を活かし、チームとしての攻撃ができるようにする。	
第 8 週	バレーボール②	同上	
第 9 週	バレーボール③	チームを編成し、ゲームができるようにする。	
第 10 週	水 泳①	水の特性を理解して泳法の練習を行うとともに、ウォーター・スポーツを体験することにより、その楽しみに触れる。	
第 11 週	水 泳②	同上	
第 12 週	水 泳③	同上	
第 13 週	バドミントン①	バドミンントンのルールを知り、基本的技術習得することで簡易ゲームができるようにする。	
第 14 週	バドミントン②	同上	
第 15 週	バドミントン③	これまでに習得した技能を活かし、ダブルスでのゲームができるようにする。	
第 16 週	ソフトボール①	これまで習得した技能をもとに、組織的なコンビネーションプレーができるようにする。チームを編成し、ゲームができるようにする。	
第 17 週	ソフトボール②	これまで習得した技能をもとに、組織的なコンビネーションプレーができるようにする。チームを編成し、ゲームができるようにする。	
第 18 週	ソフトボール③	これまでに習得した技能を活かし、ゲームができるようにする。	
第 19 週	卓 球①	卓球のルールを知り、基本的技術習得することで簡易ゲームができるようにする。	
第 20 週	卓 球②	同上	
第 21 週	ニュースポーツ①	新しいスポーツ文化を経験する。	
第 22 週	ニュースポーツ②	同上	
第 23 週	サッカー①	基本技術を習熟し、組織的なコンビネーションプレーができるようにする。	
第 24 週	サッカー②	同上	
第 25 週	サッカー③	チームを編成し、ゲームができるようにする。	
第 26 週	バスケットボール①	基本技術を習熟し、組織的なコンビネーションプレーができるようにする。	
第 27 週	バスケットボール②	同上	
第 28 週	バスケットボール③	チームを編成し、ゲームができるようにする。	
第 29 週	選択制①	主体的に種目を選択し、スポーツを行うことができるようにする。	
第 30 週	選択制②	同上	

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

英語Ⅱ (English Ⅱ)	2 年・通年・3 単位・必修 機械工学科・担当 神澤 和明	
〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (3)		
<p>〔講義の目的〕 「読む・書く・話す・聞く」の 4 技能を総合的に学習し、1 年次に身に付けた基礎的な文法、構文の学力に基づいて、発展的に発話力や読解力や作文力や語彙力を身につけることを目的とする。国際社会で交流する際に必要な、外国の歴史や文化や考え方に対する理解も更に一層深まるように指導したい。</p>		
<p>〔講義の概要〕 教材毎に、精読、速読、コミュニケーションに重点を置いて指導するが、文法力や作文力や発話力の更なる育成を目指す。精読では、文法や構文に留意して正確な英文解釈、内容把握をさせる。速読では、英語の流れに従って、短時間に正確にポイントを把握させる。コミュニケーションでは、積極的に英語を運用させる。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 新出単語・連語は必ず予習すること。各レッスンのまとめにある文法事項を理解し、作文できるようにすること。毎週実施される単語テストは語彙力をつけるために必要であるので真剣に取り組むこと。</p>		
<p>〔到達目標〕 各レッスンの内容把握を深めるために、新出文法事項を理解し、運用できるようにしたり、新出単語や熟語の定着を図るように指導する。 前期中間試験：Lesson 1～Lesson 2 ①It の用法(1)②have/get+目的語+過去分詞 ③受動態[群動詞]④受け身の動名詞 前期末試験：Lesson3～Lesson 5 ①複合関係詞②関係副詞[非制限用法]③仮定法④無生物主語⑤強調構文 後期中間試験：Lesson6～Lesson 7 ①動名詞 ②不定詞(1) ③関係代名詞(1)④語順・同格 学年末試験：Lesson8～Lesson 10 ①There 構文②関係代名詞(2)③倒置④不定詞(2)⑤省略⑥関係代名詞(3)⑦分詞構文</p>		
<p>〔評価方法〕 定期試験成績 60%，小テスト 20%，課題、授業態度点(発言の優劣や回数)20% (合計 100%)</p>		
<p>〔教科書〕 Genius English Communication II (大脩館書店)</p> <p>〔補助教材・参考書〕 Word-Meister 英単語・熟語 4500 (第一学習社)(1 年時に購入済) 総合英語 Forest (フォレスト) (桐原書店)</p>		
<p>〔関連科目〕 英語Ⅰと英文読解Ⅰに関連するが、テレビやインターネットや新聞雑誌等の英語に関する情報や未知の単語や表現に一層注意を払いながら、自分の英語の学力や発話力を絶えず brush up するように努めてほしい。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己 評価＊
第 1 週	ガイダンス、Lesson 1 Hanamizuki	日米交流の架け橋としてやってきたハナミズキ。今日も平和を 願いながら咲き誇る。It の用法(1)[It seems that~, It takes / costs~]。have/get+目的語+過去分詞。	
第 2 週			
第 3 週			
第 4 週	Lesson2 Learning Language, Learning Self	外国語を学ぶことはその背景にある文化も含めて学ぶこと。受 動態[群動詞, It's said/believed~, get +過去分詞]。受け身の受 動態[being+過去分詞]	
第 5 週			
第 6 週			
第 7 週	Lesson 3 Nature	自然からヒントを得て、より地球に優しい技術が生まれ	
第 8 週	前期中間試験		
第 9 週	Technology	る。複合関係詞[複合関係代名詞, 複合関係形容詞, 複合関係副 詞]。関係副詞[非制限用法]。	
第 10 週			
第 11 週	Lesson 4 Ahmed's Gift of Life	子供を失った父親は意外な方法で戦争に NO を突きつけた。 仮定法[I wish~, as if~, were to~, if S should~, if it were not for~, if it had not been for~]。	
第 12 週			
第 13 週			
第 14 週	Lesson 5 The World of Miyazawa Kenji is Our World	宮沢賢治が 21 世紀の私達につたえようとしていることとは。 無生物主語。It の用法(2)[強調構文]。	
第 15 週			
前期期末試験			
第 16 週	Lesson 5		
第 17 週	Lesson 6 Machu Picchu: City in the Clouds	マチュピチュは何のために作られたのか。謎を解くカギが近年 明らかに。動名詞[having+過去分詞。不定詞(1)[to have+過去 分詞]。	
第 18 週			
第 19 週			
第 20 週	Lesson 7 Paul Klee: A Musical Painter	バウル・クレーは絵画と音楽の融合を目指していた。関係代名 詞(1)[関係代名詞+I think など, what の慣用表現]。語順・同 格。	
第 21 週			
第 22 週	後期中間試験		
第 23 週	Lesson 8 Emotions Gone Wild	動物も人間と同じように複雑な感情を持っているのだろうか?。 There 構文[There+be 以外の動詞]。関係代名詞(2)[二重 限定]。	
第 24 週			
第 25 週			
第 26 週	Lesson 9 Michael J. Sandel on Kant: Freedom and Morality	サンデル教授が語るカントにとっての自由と倫理とは?。倒 置。不定詞(2)[独立不定詞]。省略。	
第 27 週			
第 28 週			
第 29 週	Lesson 10 Donald Woods: Real Journalism Takes Courage	一人のジャーナリストがアパルトヘイトに立ち向かい歴史を 動かした。関係代名詞(3)[前置詞+関係代名詞, 文や節を受け る which]。分詞構文。	
第 30 週			
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった。
(達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">英文読解 I (Intensive English I)</p>	<p style="text-align: center;">2 年・通年・2 単位・必修 全学科：担当 金澤 直志</p>	
<p>〔準学士課程（本科 1－5 年） 学習教育目標〕 (3)</p>		
<p>〔講座の目的〕 学生の英語コミュニケーションの素地を養い、さらに英語の正確な読み書きに結びつける。英語 II と連携をとりながら、学生に必要な語彙や文法、表現力を繰り返し練習する事で、彼らの総合的な英語力を高める。</p>		
<p>〔講座の概要〕 学生は、各教材によって、文法事項の説明、単語、連語の理解をさらに深め、繰り返し練習する。学生は将来、論文を正確に読み書きする際に必要となる語彙、文法、表現力を身につける。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 各章の文法事項をきちんと理解し、繰り返し練習し習得する。知らない単語や連語については、あらかじめノートに書き写し、その文意にあった意味を書き留めておく。 他の学生の発表や、それに対する教師の指導を、注意深く聞く。 出される課題は、学習内容を身につけるために大切なので、きっちりとこなす。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前期中間試験：教科書 pp.36-45 ・ 前期末 試験：教科書 pp.46-55 ・ 後期中間試験：教科書 pp.56-65 ・ 学年末 試験：教科書 pp.66-75 		
<p>〔評価方法〕 定期試験（40%），小テスト(20%)，ノート(20%)，Class Participation(20%)を加えて総合的に評価する。</p>		
<p>〔教科書〕 Extensive English Grammar in 47 Lessons (7th Edition) (桐原書店編集部)</p> <p>〔補助教材・参考書〕 総合英語 Forest (フォレスト) [7th edition] (英語 II で利用)</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語 I ・ 英語 II 		

講座項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	ガイダンスと 15 章	不定詞	
第2週	15 章	不定詞	
第3週	16 章	不定詞	
第4週	16 章	不定詞	
第5週	17 章	動名詞	
第6週	17, 18 章	動名詞	
第7週	18 章	動名詞	
第8週	19 章	分詞	
第9週	19, 20 章	分詞	
第10週	20 章	分詞	
第11週	21 章	比較	
第12週	21, 22 章	比較	
第13週	22 章	比較	
第14週	23 章	比較	
第15週	23, 24 章	比較, 関係詞	
前期末試験			
第16週	24 章	関係詞	
第17週	25 章	関係詞	
第18週	25, 26 章	関係詞	
第19週	26 章	関係詞	
第20週	27 章	関係詞	
第21週	27, 28 章	関係詞、仮定法	
第22週	28 章	仮定法	
第23週	29 章	仮定法	
第24週	29, 30 章	仮定法	
第25週	30 章	仮定法	
第26週	31 章	疑問詞と疑問文	
第27週	31, 32 章	疑問詞と疑問文、否定	
第28週	32 章	否定	
第29週	33 章	否定	
第30週	34 章	話法	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した、3 : ほぼ理解した、2 : やや理解できた、1 : ほとんど理解できなかった、0 : 全く理解できなかった、
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">材料学 I (Engineering Materials I)</p>	<p style="text-align: center;">2 年・通年・1 単位・必修 機械工学科・担当 谷口 幸典</p>	
<p>〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>原始時代，人類は天然に存在する材料を選び，使いやすいように加工して利用し始めた．その後，鉱石からの金属材料の抽出が始まり，古代文明が発展した．現在，我々は天然に存在しない材料を創造するまでに至っている．人類の文明の歩みは材料開発の歩みに他ならない．本講義では，近代文明の発展に大きく寄与した金属材料に関する基礎的事項を学習するとともに，金属組織学の基礎知識を修得することを目的とし，材料を利用する上での基礎的素養を修得する．</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>金属の原子配列や変形のメカニズム，強さ，硬さ，粘り強さなどの機械的性質の定義とその評価法について解説するとともに，合金が温度によってどのような変化を示すかを表す平衡状態図の意味と読み方を説明する．</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>教科書には材料の状態や性質変化を表す多くの図表が示されている．これら模式図や特性図が意味する事柄を正確に理解できる読解力を養うためにも，ノートを正確にとるとともに，あらかじめ教科書を読んでおき，授業中に疑問点を質問することが望ましい．</p> <p>学ぶ事柄は多岐にわたる．これら全ては 3 年次以降の各専門科目を理解するのに重要な知識であるので取りこぼし無く修得するよう努力してほしい．</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間試験：1) 結晶の種類，2) ミラー指数，3) 結晶の各種欠陥 前期末試験：1) 引張試験と応力-ひずみ線図，2) 硬さ試験の種類，3) 塑性加工 後期中間試験：1) 熱分析曲線，2) 純金属・合金の相変化，3) 状態図 学年末試験：1) 各種状態図，2) てこの関係，3) 鉄鋼材料の状態図</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>中間，期末の定期試験成績（70％），小テストおよび課題レポート（30％）の総合評価とする．</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>「図解 機械材料」，東京電機大学出版局，打越二彌</p> <p>なお，本教科書は 3 年次の「材料学Ⅱ」で引き続き教科書として利用する．</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>例えば，「大学基礎 機械材料」，実教出版，門間改三</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>機械工作実習Ⅰ・Ⅱ，機械工作法Ⅰ・Ⅱ，機械設計製図Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，材料力学Ⅰ・Ⅱ，材料学Ⅱ，など，機械材料を扱う全ての科目に関連する．</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第 1 週	材料とは？	人類が利用してきた材料の形態について説明する。	
第 2 週	金属材料の開発	過去から現在に至る機械材料の開発と発展について概説する。	
第 3 週	結晶の種類	結晶粒，結晶粒界，結晶構造等について解説する。	
第 4 週	ミラー指数	ミラー指数の意味と求め方を解説する。	
第 5 週	合金の結晶構造	合金の構造，固溶体の種類について解説する。	
第 6 週	結晶の各種欠陥	点欠陥，線欠陥，面欠陥と転移について解説する。	
第 7 週	材料の機械的性質	材料の機械的性質とその試験法について概説する。	
第 8 週	引張試験	引張試験によって得られる機械的性質を理解させる。	
第 9 週	応力－ひずみ線図	応力とひずみの関係と降伏について解説する。	
第 10 週	曲げ試験	曲げ試験の意義と測定項目について説明する。	
第 11 週	硬さ試験	硬さ試験の種類と測定方法について解説する。	
第 12 週	衝撃試験	衝撃試験の意義と材料の脆性について説明する。	
第 13 週	材料の疲労	試験法と S-N 線図について説明する。	
第 14 週	塑性加工と機械的性質	加工の種類と機械的性質の変化について解説する。	
第 15 週	塑性変形の機構	材料の塑性変形がどのように生じるのかを説明する。	
前期期末試験			
第 16 週	金属材料の状態の変化	加熱・冷却に伴う金属・合金の状態の変化について説明する。	
第 17 週	相変化と変態点	純金属の変態現象について説明する。	
第 18 週	熱分析曲線	熱分析曲線の意義と測定方法について説明する。	
第 19 週	純金属の凝固	結晶核の発生と凝固組織について説明する。	
第 20 週	合金の凝固	合金の凝固過程と熱分析曲線について説明する。	
第 21 週	状態図	状態図の意味を説明し，全率固溶体型状態図について解説する。	
第 22 週	てこの関係	合金の組成表示と各相の量関係の計算法について説明する。	
第 23 週	共晶型状態図 1	共晶反応について解説し，共晶型状態図の読み方を理解させる。	
第 24 週	溶解度曲線	溶解度曲線の意味と読み方を解説する。	
第 25 週	共晶型状態図 2	部分固溶範囲を有する共晶型状態図の読み方を理解させる。	
第 26 週	包晶型状態図	包晶型状態図の読み方を説明する。	
第 27 週	偏晶型状態図	偏晶型状態図の読み方を説明する。	
第 28 週	材料の強化と強じん化	材料の強度特性について説明する。	
第 29 週	金属材料の強化方法	転位の移動を阻止する種々の手法について概説する。	
第 30 週	その他の状態図	その他状態図の例を概説し，実際の金属の状態図を概観する。	
学年末試験			

* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">機械工作法 I (Mechanical Technology I)</p>	<p style="text-align: center;">2 年・通年・2 単位・必修 機械工学科・担当 児玉 謙司</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕 各種工作法の原理および基礎知識を理解し、構造物の設計・製作において、合理的かつ信頼性のある加工法を選択する能力を養う。</p>		
<p>〔講義の概要〕 鋳造、塑性加工、溶接および各種先端加工技術について講義を行う。加工法の原理を説明するとともに加工機械、最適な加工条件および加工中に生じる現象などについて解説する。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 講義内容を記憶するのではなく、理解することが大切である。話を聞きながらノートを取り理解する習慣を身に付けること。</p>		
<p>〔到達目標〕 前期中間試験： 1) 鋳造模型、造型について理解、 2) 鋳造欠陥についての理解 3) 各種の鋳造法についての理解、 4) 溶解炉についての理解 前期末試験： 1) 鍛造条件についての理解、 2) 鍛造作業や鍛造機械についての理解 3) 圧延、曲げ、深絞り加工の理解、 2) その他の塑性加工法の理解 後期中間試験： 1) ガス溶接、被覆アーク溶接の理解、 2) 各種アーク溶接の理解 3) 溶接部の性質についての理解、 4) 溶接部の強度計算についての理解 学年末試験： 1) 放電加工の理解、 2) 電子ビーム加工の理解 3) レーザー加工の理解、 4) 超音波加工の理解 5) フォトファブリケーションの理解、 6) 光造型法についての理解</p>		
<p>〔評価方法〕 定期試験成績 (70%)、レポートおよび演習課題 (15%)、ノート作成提出 (15%) を総合して評価する。</p>		
<p>〔教科書〕 「機械系教科書シリーズ3 機械工作法」, コロナ社, 平井・和田・塚本共著 「最新 機械製作」, 養賢堂, 械製作法研究会編 〔補助教材・参考書〕 「マイクロ応用加工」, 共立出版, 木本・矢野・杉田・山本共著 その他、配布プリントなど</p>		
<p>〔関連科目〕 1・2 年次の機械工作実習、3 年次の創造設計製作と関連する。本講義目標の達成には材料学 I、機械工学入門で学ぶ知識も必要である。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	鑄造とは	鑄造について概観し、鑄造加工の必要性を明らかにする。	
第2週	鑄造模型	鑄造模型の種類と用途について解説する。	
第3週	鑄型	シェルモールド法など鑄型による分類について解説する。	
第4週	金属の溶解	地金溶解用の各種炉について解説し、各特徴を理解する。	
第5週	鑄造欠陥	欠陥の原因を解説し、製品設計の際の留意点を理解する。	
第6週	特殊な鑄造法	ダイカスト、遠心鑄造法など各種の鑄造法を理解する。	
第7週	塑性加工とは	塑性加工について概観する。	
第8週	鍛造、鍛造作業	鍛造、鍛造作業について解説する	
第9週	鍛造温度	鍛造温度と再結晶の関係について解説する。	
第10週	圧延加工	各種の鍛造作業を説明し、それぞれの特徴を理解する。	
第11週	プレス加工	プレス加工について概説し、各特徴を理解する。	
第12週	曲げ加工、深絞り加工	曲げ加工におけるひずみや応力状態について理解する。深絞り加工の変形メカニズムについて理解する。	
第13週	成形加工1	スエージ加工、エンボス加工、しごき加工について理解する。	
第14週	成形加工2	引き抜き加工、押し出し加工について理解する。	
第15週	成形加工3	爆発成形、放電成形、電磁成形等について理解する。	
前期期末試験			
第16週	溶接とは	溶接の歴史を概観し、溶接の必要性を明らかにする。	
第17週	ガス溶接	ガス溶接法について概説し、溶接上の注意事項を理解する。	
第18週	被服アーク溶接	アーク溶接の原理を理解する。	
第19週	各種アーク溶接	サブマージアーク溶接、イナートガスアーク溶接、炭酸ガスアーク溶接について説明する。	
第20週	各種溶接法	高周波溶接、ガス圧接について理解する。	
第21週	溶接部の性質	溶接部の組織変化・溶接部の欠陥について理解する。	
第22週	溶接部の強度計算	構造物にかかる力から、溶接部にかかる応力を求める。	
第23週	微細加工とは	微細加工の必要性について解説する。	
第24週	放電加工	放電加工の原理、加工例について理解する。	
第25週	電子ビーム加工	電子ビーム発生原理、加工の特徴、加工例について解説する。	
第26週	レーザー加工	レーザー発振の原理、レーザー溶接・加工について理解する。	
第27週	超音波加工	超音波振動発生原理、加工の特徴、加工例について解説する。	
第28週	フォトファブリケーション	エッチング加工、電鋳について理解する。	
第29週	光造型加工	光造型法の原理、応用例について解説する。	
第30週	薄膜・コーティング加工	各種薄膜成長法、コーティング加工例について解説する。	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった。
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">情報処理 I (Information Processing I)</p>	<p style="text-align: center;">2 年・後期・1 単位・必修 機械工学科・担当 平 俊男</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>コンピュータは、科学技術のどの分野においても必要不可欠なものとなっている。機械工学分野では、例えば複雑な機械の強度や熱の伝わり方などの計算にコンピュータが用いられている。このような計算をコンピュータに行なわせるには、問題を十分に分析し、その解決手順を決定することが必要である。本講義では、プログラミング言語としてC言語を取り上げ、その基礎技術を習得し、コンピュータを道具として使いこなして工学関連の問題を解決する素養を身に付けることを目的とする。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>まず、コンピュータによる計算作業について演習を取り入れながら解説する。次にプログラムを作成するためのアルゴリズムについて説明し、順次、分岐、繰り返し処理について演習を通して理解を図る。最後に、データ処理に関するものとして、配列、関数などを取り上げる。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>コンピュータはそれ自身では何の問題も解決できません。問題を分析し、解決までの手順を考え、コンピュータが計算できるようにお膳立てするのは皆さんです。特にプログラミング修得は「習うよりも慣れろ」です。演習問題に積極的に取り組み、プログラム技術の習得を通して論理的な問題解決の手順を学びましょう。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間試験：C言語プログラミング環境の基礎事項を修得する。演算と型、プログラムの流れの分岐の基礎的なプログラミングができる。</p> <p>前期末試験：プログラムの繰り返しのアルゴリズムを理解し、基礎的操作ができる。</p> <p>後期中間試験：配列の基礎を習得し、基礎的操作ができる。</p> <p>学年末試験：プログラムの分岐、繰り返し、配列の基礎的なプログラミング。関数を説明できる。</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>定期試験(60%)、演習課題、小テスト、学習記録(40%)を含めて総合的に評価します。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>教科書名：新版 明解C言語入門編，出版社 ソフトバンククリエイティブ，著者 柴田望洋</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>補助教材：配布プリント</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>問題の分析力：国語</p> <p>問題の解決力：数学と物理</p> <p>プログラミング技術：英語，（プログラム記述やデバッグで必要）</p> <p>専門：情報リテラシ（1年），情報処理Ⅱ（3年），数値解析（4年）</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第 1 週	まずは慣れよう	プログラム開発環境やコンパイラの仕組み, プログラムの書き方, デバッグ方法について説明する.	
第 2 週	演算と型	四則演算, 整数, 実数型などの基本を習得させる.	
第 3 週	プログラムの流れ	条件によりプログラムの流れを変えるための基本を習得する.	
第 4 週	総合演習 (1)	これまでの内容をもとに総合演習を行う.	
第 5 週	流れの分岐	プログラムの流れの分岐の基礎的操作を理解させる.	
第 6 週	流れの繰り返し (1)	プログラムの流れを繰り返すための基本を習得する.	
第 7 週	流れの繰り返し (2)	多重ループを用いた繰り返しの基本操作を習得させる.	
第 8 週	総合演習 (2)	流れの繰り返しの総合復習を行う.	
第 9 週	配列 (1)	1 次元配列について基礎的操作を理解させる.	
第 10 週	配列 (2)	多次元配列について基礎的操作を理解させる.	
第 11 週	総合演習 (3)	1 次元配列, 多次元配列について総合演習を行う.	
第 12 週	関数 (1)	関数の定義, 呼出し, 引数, 返却値について理解させる.	
第 13 週	関数 (2)	関数設計のアルゴリズムを理解させる.	
第 14 週	関数 (3)	配列の受け渡しについて説明, 演習を行う.	
第 15 週	総合演習 (4)	総合演習を行う.	
期末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

機械設計製図Ⅱ (Machine Design and Drawing Ⅱ)		2年・通年・2単位・必修 機械工学科・担当 榎 真一	
〔準学士課程(本科1-5年) 学習教育目標〕 (2)			
〔講義の目的〕 機械製図規格および関連規格を理解し、これを機械・器具などの図面を読むことや描くことに有効に適切に応用できる能力を養うことを目的とする。将来機械技術者となるために欠くことのできない重要な科目で、実技を主体として体得する。			
〔講義の概要〕 機械要素の種類・構造・用途および規格を理解できるように解説を行い、適切な機械要素の選択および使用することができる能力を身に付け、簡単な機械要素の設計ができるように、機械のスケッチを中心に機械製図に関する総合的な判断力を養い、読図と作図の能力の向上をはかる。			
〔履修上の留意点〕 製図は、機械工学のうち最も基礎的かつ重要な科目の一つであり機械設計者、機械技術者に必須のものである。製図の学習は、教科書を読むだけでは実力の養成にはならない。読図・作図を幾度か繰り返すことによって、その内容を十分理解し把握できるようにする。			
〔到達目標〕 前期 ○ねじの基本・製図法を理解した上で、おねじとめねじを正しく図示することができる。 ○ねじ部品の規格および製図法を理解する。 ○六角ボルト・六角ナットを略画法に従って製図し、良質の図面を完成させ、提出期限までに提出する。 ○表面性状を理解し、指示記号の記入ができる。 ○豆ジャッキを機械製図規格に従って製図し、良質の図面を完成させ、提出期限までに提出する。 ○寸法公差・はめあい・幾何公差を理解する。 後期 ○軸・軸継手の用途・製図法を理解する。 ○軸受の種類・用途・製図法を理解する。 ○歯車の種類・用途・製図法を理解する。 ○歯車の種類・用途・歯車諸元・要目表・製図法を理解し、平歯車を機械製図規格に従って製図し、良質の図面を完成させ、提出期限までに提出する。 ○溶接継手の種類・溶接記号を理解する。 ○管・管継手・バルブの種類・用途を理解する。 ○伝動装置・ばねの用途・製図法を理解する。 ○スケッチ図の作成方法を理解し、スケッチ図の作成ができる。さらに、スケッチ図を基に機械製図規格に従って良質の図面を完成し、提出期限までに提出する。			
〔評価方法〕 定期試験(20%)、小テスト(10%)、製図作品 (60%)、課題レポート(10%)を総合して評価する。			
〔教科書〕 「教科書名：機械製図」出版社：実教出版、著者：林 洋次 〔補助教材・参考書〕 「補助教材：新編「JIS 機械製図」森北出版 配布プリント			
〔関連科目〕 1 学年の機械設計製図Ⅰで学習した知識を基に、機械工学入門、機械工作実習Ⅰ・Ⅱ、機械工作法Ⅰなどと密接な関係があり、機械要素の製図を有機的に学習することが効果的である。			

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己 評価＊
第 1 週	ねじの基本および製図	ねじ各部の名称，ねじの巻き方向，ピッチ・リードねじの種類 ねじ部品の規格および製図法	
第 2 週	ボルトの種類と呼び方	ボルト，六角ボルト，ナット，小ねじ・止めねじについて	
第 3 週	ボルト・ナットの製図 1	①六角ボルト・ナットの略画法により各部の大きさを決める ②図の配置を考え，図枠・表題欄・部品欄を記入し，中心線や 基準線を引き，略図法に従って描く ③略画法による各部の大きさに従って作図作業をする ④図形を完成し，寸法の記入，検図する	
第 4 週	ボルト・ナットの製図 2		
第 5 週	ボルト・ナットの製図 3		
第 6 週	表面性状の基本		表面性状パラメータ，算術平均粗さ，図示・記入方法
第 7 週	豆ジャッキの製図 1	①図の配置を考え，表題欄・部品欄に記入し，中心線や基準線 を引き，品物の輪郭を薄く描く ②外形線やかくれ線を引き，不要な線を消し，図形を完成する ③寸法および表面性状の記入し，検図する	
第 8 週	豆ジャッキの製図 2		
第 9 週	豆ジャッキの製図 3		
第 10 週	豆ジャッキの製図 4		
第 11 週	寸法の許容限界	寸法公差に対する用語の意味と寸法の許容限界の記入法	
第 12 週	はめあい	はめあいの種類、穴基準、軸基準の必要性和相違品および特徴	
第 13 週	幾何公差と図示の仕方	幾何公差の種類と意味を理解しデータと指示線の引き方	
第 14 週	総合演習 1	寸法公差，はめあい，幾何公差の理解を深める	
第 15 週	総合演習 2	寸法公差，はめあい，幾何公差の理解の確認（小テスト）	
第 16 週	軸・軸継手	軸およびキー・ピンの用途・製図法，軸継手の種類・用途	
第 17 週	軸受	軸受の種類・用途・製図法	
第 18 週	歯車	歯車の種類・用途，歯車各部の名称・歯の大きさ・歯車諸元，歯 車の図示方法・要目表	
第 19 週	平歯車の製図 1	①図の配置を考え，図枠・表題欄・部品欄を記入し，中心線を描 き，品物の輪郭を薄く描く．更に，外形線や他の線も描く ②不要な線を消し，図形を完成させ，寸法記入し，検図する	
第 20 週	平歯車の製図 2		
第 21 週	溶接継手・管・管継手・バルブ	溶接継手の種類・溶接記号、管・管継手・バルブの種類・用途	
第 22 週	伝動装置・ばね	巻きかけ伝動装置の種類，ばねの種類・製図法	
第 23 週	スケッチ図 1	スケッチを行い，スケッチ図を作成する． ①スケッチ図は用紙の大きさ、投影図の数を考慮して配置する ②品物の適切な主投影図を選択し、最小限の投影図を補足する ③スケッチ図に必要な寸法線を全部引き、寸法数値を記入する	
第 24 週	スケッチ図 2		
第 25 週	スケッチ図 3		
第 26 週	スケッチ図 4		
第 27 週	製作図 1	スケッチ図を基に製作図を作成する． ①図の配置を考え，図枠・表題欄・部品欄を記入し，中心線を描 き，品物の輪郭を薄く描く ②外形線・かくれ線・切断線・想像線・破断線などを描く ③不要な線を消し，図形を完成させる ④寸法および表面性状の記入し，検図する	
第 28 週	製作図 2		
第 29 週	製作図 3		
第 30 週	製作図 4		

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
(達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">機構学 (Machine Mechanism)</p>	<p style="text-align: center;">2 年・後期・1 単位・必修 機械工学科・担当 廣 和樹</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>機構学は、機械を構成している部品の相対運動を学習する。本講義では、一般的によく使用される機械の部品について、それがどのような役割をしてどのように動くのかイメージできることを目的とする。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>教科書に従って、総論から講義を行なう。イメージを掴むために、コンピュータを用いた動画により補足説明する。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>学習効果を上げるには、基礎的な概念を明確に把握し、公式も単なる丸暗記ではなく最低 1 度は時間をかけて理解しようとするのが大切である。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>中間試験：機構と運動，対偶と運動，リンク機構、摩擦伝動装置 期末試験：カム機構，歯車装置、無段変速装置</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>定期試験(80%)を基本とし、これに授業態度点(メモの提出とノート作成など)(20%)を加え、総合的に評価する。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>「絵ときでわかる機構学」住野 和男，林 俊一，オーム社「</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>機構学の「しくみ」と「基本」小峯龍男，技術評論社</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>講義・演習にあたっては、数学や専門科目の学習と関連づけて進めていく。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第 1 週	概要説明	機構学について概要説明する.	
第 2 週	機構と運動	機構について説明する.	
第 3 週	対偶と運動	対偶と運動について説明する.	
第 4 週	リンク機構 1	リンク機構について説明する.	
第 5 週	リンク機構 2	リンク機構について説明する.	
第 6 週	摩擦伝動装置	摩擦伝動装置について説明する.	
第 7 週	演習	前半の演習を行う.	
第 8 週	カム機構 1	カム機構について説明する.	
第 9 週	カム機構 2	カム機構について説明する.	
第 10 週	歯車装置 1	歯車について説明する.	
第 11 週	歯車装置 2	歯車について説明する.	
第 12 週	歯車装置 3	歯車について説明する.	
第 13 週	無段変速装置 1	無断変速装置について説明を行う.	
第 14 週	無段変速装置 2	無断変速装置について説明を行う.	
第 15 週	演習	後半の演習を行う.	
期末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

機械工作実習Ⅱ (Workshop PracticeⅡ)		2年・通年・3単位・必修 機械工学科・担当 和田 任弘	
[準学士課程(本科1-5年) 学習教育目標] (4)			
[講義の目的] 第1学年の実習で得た知識を基礎として、さらに機械加工についての考察を深めるとともに金属の熱間変型挙動や計測技術についても学習する。また、数値制御におけるプログラミング(シミュレーション)についても理解する。本実習を通じて、生産技術分野の素養を身に付ける。			
[講義の概要] 1クラスを5グループに班編成(1グループ8～9名)して、ローテーションにて各作業を行う。作業内容、担当者、製作製品および実習時間は以下の通りである。なお、実習作業は通年25週であるが、ガイダンス、安全教育などを含めると年間30週となる。			
作業名・担当者 鍛造・池内	製作製品 釘抜き	実習時間(週) 5	作業内容・作業要素 伸し作業、先延べ作業、割り作業、研削作業、熱処理(焼入れ、焼戻し)
旋盤・笹山・福田	芯合せトースカン	5	端面切削、テーパ切削、突切りローレット、中ぐり、タップ・ダイス作業
フライス盤・島田(和田)	レベリングブロック	5	立フライス作業、正面フライス、エンドミル
M C・尾崎	ネームプレート	5	プログラムコード、工具径補正、シミュレーション、プログラム切削
CNC旋盤・井上	シャフト	3	プログラムコード、切削サイクル、テーパ切削、円弧切削、ネジ切り、プログラム切削
計測・井上		2	角度の測定、ネジの測定、歯車の測定、サーボ実験(ステッピングモータの周波数特性)
[履修上の留意点] 機械工作法で学んだ加工の原理や様々な現象を実際に自分の目で確かめる。また、各種設計を行う上で必要な加工の基礎知識を習得する。			
[到達目標] 6種類の作業におけるそれぞれの作業要素をすべて理解し、標準作業でない場合でも自らが加工手順を考えられるようになること。			
[評価方法] 各作業のレポート(80%)、実習課題の取組み・積極性(作品の完成度)(20%)で評価する。なお、レポートの提出期限は原則として各作業終了後1週間以内とし、未提出のレポートがある場合は、評価されないので、注意すること。			
[教科書] 「安全作業の手引き」、「工作実習プリント」			
[補助教材・参考書] 「最新機械製作」 機械製作法研究会 編 養賢堂			
[関連科目] 機械工作法が非常に密接な関係があるのでテキスト「最新機械製作」による予習と復習を行って欲しい。			

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	ガイダンス	実習内容についての説明、安全作業	
第2週	実習作業①開始	「実習の概要」に記載した実習内容、実習要素を理解する。	
第3週			
第4週			
第5週			
第6週			
第7週	実習作業②開始	「実習の概要」に記載した実習内容、実習要素を理解する。	
第8週			
第9週			
第10週			
第11週			
第12週	安全作業	安全についての講義	
第13週	実習作業③開始	「実習の概要」に記載した実習内容、実習要素を理解する。	
第14週			
第15週			
第16週			
第17週			
第18週	実習作業④開始	「実習の概要」に記載した実習内容、実習要素を理解する。	
第19週			
第20週			
第21週			
第22週			
第23週	実習作業⑤開始	「実習の概要」に記載した実習内容、実習要素を理解する。	
第24週			
第25週			
第26週			
第27週			
第28週	安全作業	安全作業の取組みについてのまとめ	
第29週	反省会①	一年間の作業についての自己点検・評価を行う。	
第30週	反省会②	一年間の作業についての自己点検・評価を行う。	

* 4：完全に理解した，3：ほぼ理解した，2：やや理解できた，1：ほとんど理解できなかった，0：まったく理解できなかった。
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)